第Ⅴ章

まちづくり基本目標

ページの構成

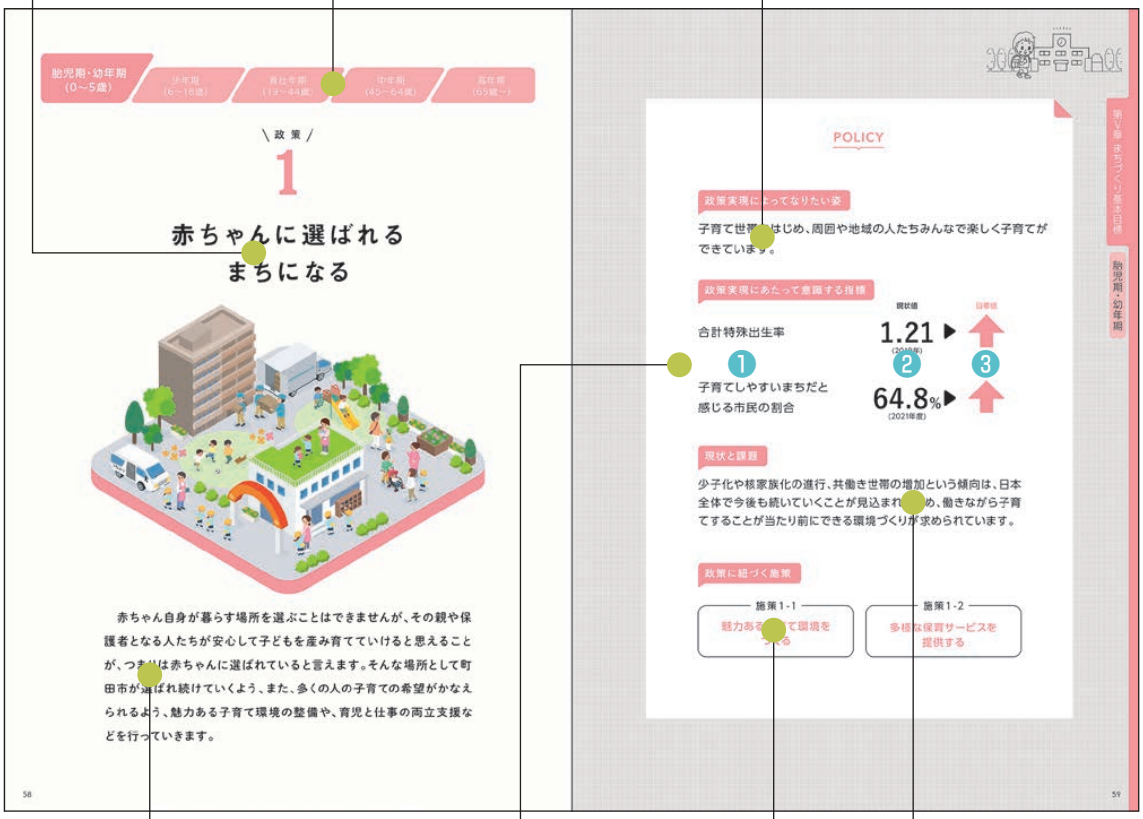
まちづくり基本目標では、政策と施策ごとのなりたい姿や現状と課題、指標などを示しています。各項目の内容については、次のとおりです。

政策名

ライフステージ表示
どの年代と関わりがあるか色の濃淡で示しています。

政策実現によってなりたい姿
政策を実現することによって、まちがどのようになっているかを記載しています。

＜政策ページ＞



政策の説明

政策実現にあたって意識する指標
政策の進捗状況を把握するための指標を設定しています。
1. 指標の名称
2. 現状値
3. 目標の方向
   - ⬆：上昇、増加、向上
   - ➡：現状維持
   - ⬇：低減、減少、削減

現状と課題
計画策定時点（2021年度）の政策に関する現状と課題を記載しています。

政策に紐づく施策
政策を実現するための施策を記載しています。

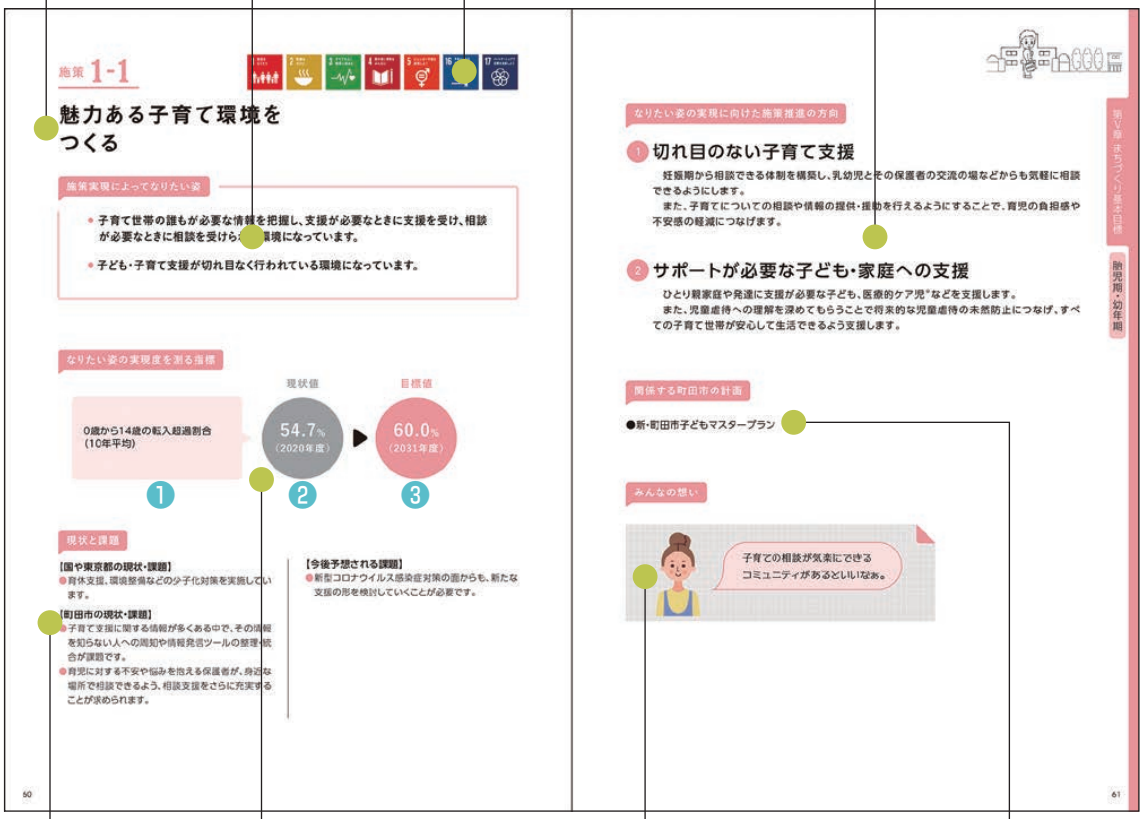
施策名
政策を実現するための施策の名称を記載しています。

SDGsアイコン
SDGsのどのゴールに主に関連するかを示しています。

施策実現によってなりたい姿
施策を実現することによって、まちがどのようになっているかを記載しています。

なりたい姿の実現に向けた取り組み
施策の課題を解決し、なりたい姿の実現のため必要な取り組みを記載しています。

＜施策ページ＞



なりたい姿の実現度を測る指標
施策の進捗状況を把握するための指標を設定しています。

1. 指標の名称
2. 現状値
3. 目標値

関連する町田市の計画
施策に関連する計画策定時点（2021年度）の町田市の計画を記載しています。

現状と課題
計画策定時点（2021年度）の政策に関する現状と課題を記載しています。

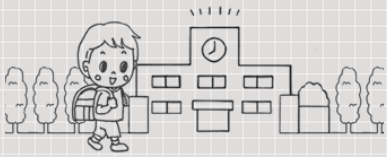
みんなの想い
なりたい姿の実現に向けた市民・事業者の想いや協力できることを記載しています。

＼ 政 策 ／

1

赤ちゃんに選ばれるまちになる

赤ちゃん自身が暮らす場所を選ぶことはできませんが、その親や保護者となる人たちが安心して子どもを産み育てていけると思えることが、つまりは赤ちゃんに選ばれていると言えます。そんな場所として町田市が選ばれ続けていくよう、また、多くの人の子育ての希望がかなえられるよう、魅力ある子育て環境の整備や、育児と仕事の両立支援などを行っていきます。



POLICY

政策実現によってなりたい姿

子育て世帯をはじめ、周囲や地域の人たちみんなで楽しく子育てができています。

政策実現にあたって意識する指標

	現状値	目標値
合計特殊出生率	1.21（2019年）	▲
子育てしやすいまちだと感じる市民の割合	64.8%（2021年度）	▲

現状と課題

少子化や核家族化の進行、共働き世帯の増加という傾向は、日本全体で今後も続いていくことが見込まれるため、働きながら子育てすることが当たり前にできる環境づくりが求められています。

政策に紐づく施策

施策1-1
魅力ある子育て環境をつくる

施策1-2
多様な保育サービスを提供する

施策 1-1

魅力ある子育て環境をつくる

施策実現によってなりたい姿

- 子育て世帯の誰もが必要な情報を把握し、支援が必要なときに支援を受け、相談が必要なときに相談を受けられる環境になっています。
- 子ども・子育て支援が切れ目なく行われている環境になっています。

なりたい姿の実現度を測る指標

0歳から14歳の転入超過割合
（10年平均）

現状値	目標値
54.7%（2020年度）	60.0%（2031年度）

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 育休支援、環境整備などの少子化対策を実施しています。

【町田市の現状・課題】

- 子育て支援に関する情報が多くある中で、その情報を知らない人への周知や情報発信ツールの整理・統合が課題です。
- 育児に対する不安や悩みを抱える保護者が、身近な場所で相談できるよう、相談支援をさらに充実することが求められます。

【今後予想される課題】

- 新型コロナウイルス感染症対策の面からも、新たな支援の形を検討していくことが必要です。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 切れ目のない子育て支援

妊娠期から相談できる体制を構築し、乳幼児とその保護者の交流の場などからも気軽に相談できるようにします。

また、子育てについての相談や情報の提供・援助を行えるようにすることで、育児の負担感や不安感の軽減につなげます。

2 サポートが必要な子ども・家庭への支援

ひとり親家庭や発達に支援が必要な子ども、医療的ケア児※などを支援します。

また、児童虐待への理解を深めてもらうことで将来的な児童虐待の未然防止につなげ、すべての子育て世帯が安心して生活できるよう支援します。

関係する町田市の計画

●新・町田市子どもマスタープラン

みんなの想い

子育ての相談が気楽にできる
コミュニティがあるといいなぁ。

施策 1-2

多様な保育サービスを提供する

施策実現によってなりたい姿

- 子育てと仕事の両立ができ、ワークライフバランス※が保てることで、充実した子育てや仕事を実現しています。
- 保育を必要としているときに必要な保育サービスを利用できる環境を実現しています。

なりたい姿の実現度を測る指標

認可保育所等待機児童数

	現状値	目標値
認可保育所等待機児童数	76人（2021年度）	0人（2031年度）

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国の「新子育て安心プラン」では、2021年度から2024年度末までに、女性の就業率82%に対応する約14万人分の保育の受け皿を整備することとしています。
- 国の「新しい経済政策パッケージ※」では、幼児教育・保育の無償化を打ち出しています。

【町田市の現状・課題】

- 0～11歳までの人口推移は、2020年までの5年間で3,600人減少しており、今後も減少傾向が続くことが見込まれます。

【今後予想される課題】

- 就労していない保護者（母親）のうち、「1年以内または1年より先に就労したい」人が半数を超え、保育ニーズの高まりが続いています。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 多様な保育の充実

保育を必要としているすべての子育て世帯が、必要としている保育サービスを受けられるようにするため、保護者の多様な働き方に対応した取り組みを行います。

2 保育所待機児童の解消

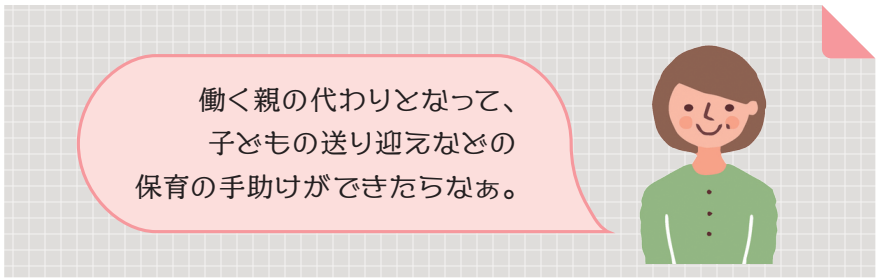
必要な地域に必要な保育施設（認可保育所、小規模保育事業所など）の整備を行います。

また、施設整備にあたっては、地域ごとの資源や子どもの数の変化を踏まえ、新設園の整備だけでなく、既存園の増改築や定員数の変更などにも取り組みます。

関係する町田市の計画

●町田市教育プラン2019-2023
●町田市生涯学習推進計画2019-2023
●新・町田市子どもマスタープラン

みんなの想い

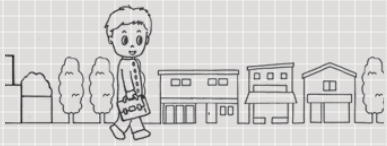


＼ 政 策 ／

2

未来を生きる力を育み合うまちになる

子どもたちは未来に向かって、やりたいことやなりたいものを選び取っていきます。そして、その選択肢を増やせるよう支えていくことが市の責務です。町田市で育った子どもたちが様々な分野で活躍できるよう、また、地域全体で成長していくことができるよう、子どもたちの学ぶ意欲を育てる取り組みや、教育環境の充実などを図っていきます。



POLICY

政策実現によってなりたい姿

大人と子どもが共に成長し、まちづくりに取り組んでいます。

政策実現にあたって意識する指標

	現状値	目標値
子どもがいきいきと育つ地域環境が整っていると思う市民の割合	53.0%（2021年度）	↑
将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合	小6 82.8% 中3 67.6% （2019年度）	↑

現状と課題

情報化やグローバル化※が進む社会において、子どもたちが主体的に行動していくための基礎となる学習環境の整備や、学校、家庭、地域の連携体制の構築などが求められています。

政策に紐づく施策

- 施策2-1 子どもが自分らしく育つ場を提供する
- 施策2-2 学ぶ意欲を育てる
- 施策2-3 教育環境を充実させる
- 施策2-4 地域の教育力を高める

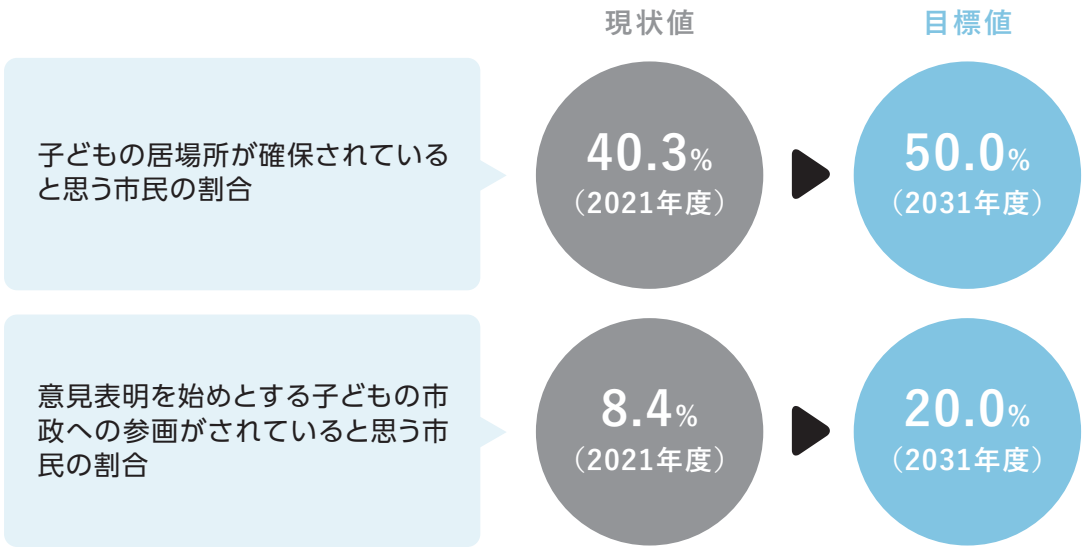
施策 2-1

子どもが自分らしく育つ場を提供する

施策実現によってなりたい姿

- 行政のあらゆる活動に子どもが意見でき、大人と共にまちづくりに取り組んでいます。
- 家庭の事情に関係なく、子どもが「活動の場」「生活の場」「豊かに過ごせる場」を選択できるまちになっています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 2020年の国内の出生数は、統計以来最も少なくなりました。この少子化傾向は、今後数十年続くことが見込まれます。

【町田市の現状・課題】

- 合計特殊出生率が、国や多摩26市の平均を下回っている状況です。
- 近年、年少人口の転入超過が続いており、子育て世帯に選ばれるまちになっています。

【今後予想される課題】

- 子どもを産み育てたい人たちの希望をかなえられる環境づくりが必要です。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 子どもの参画の推進

子どもたちが大人と共に、市政に関する意見交換や検討の機会に参画できるようにします。
また、子どもの参画を推進することで、ユニセフが主唱する「子どもにやさしいまちづくり」を実現します。

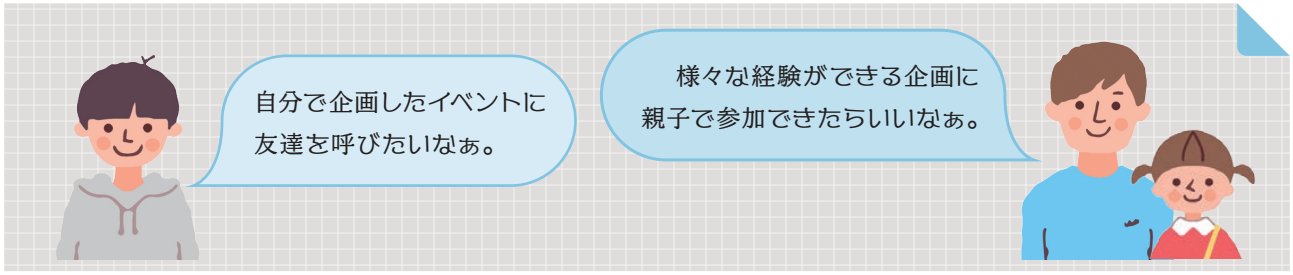
2 子どもの居場所・活動拠点づくり

0～18歳の子どもたちが、遊び、野外活動、創作、スポーツ、調理などの様々な体験活動や異なる世代との交流を通して、社会性とコミュニケーション能力を育む場を提供します。

関係する町田市の計画

●新・町田市子どもマスタープラン

みんなの想い



施策 2-2

学ぶ意欲を育てる

施策実現によってなりたい姿

- 次代を担う子どもたちが、グローバル化やICTなどの技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの社会において、夢や志を持ち、自ら考え、目標に向かってたくましく生きることができるようになっています。

なりたい姿の実現度を測る指標

	現状値	目標値
授業で、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた児童・生徒の割合	小6 64.1% 中3 58.4% （2019年度）	小6 80.0% 中3 70.0% （2031年度）
全国体力・運動能力、運動習慣等調査「体力合計点」 （全国平均を100とした場合）	小5 男子 100 女子 99 （2019年度） 中2 男子 95 女子 96 （2019年度）	小5 男子 104 女子 103 （2031年度） 中2 男子 100 女子 100 （2031年度）
自分の考えや意見を発表することが得意な児童・生徒の割合 （全国平均を100とした場合）	小6 101 中3 98 （2019年度）	小6 105 中3 103 （2031年度）

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、「学びの保障」をどう確保していくかが課題となっています。
- 2020年度に小学校で、2021年度に中学校で新学習指導要領が全面実施され、小学校3・4年生に外国語活動、5・6年生に外国語が導入されました。英語教育の本格実施に伴い、指導力の強化、指導体制の充実が求められます。

【町田市の現状・課題】

- 児童・生徒の学力・体力は、東京都と比較して低い状況です。
- えいごのまちだ事業の展開もあり、「英語が楽しいと思う」小学校5年生の児童の割合が増加傾向です。2020年度は、コロナ禍による授業形態の制限などにより、その割合が若干減少したため、指導形態などの工夫が必要です。

【今後予想される課題】

- グローバル化やICTの技術革新が急速に進むなど、予測困難なこれからの社会に子どもたちが対応できる力をいかに育んでいくかが課題です。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 児童・生徒の学力の向上

一人1台のタブレット端末配備による個別最適化や協働的な学びの場面を取り入れ、児童・生徒の学力向上を推進します。また、対話形式の学習機会を増やすなど、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組みます。

加えて、英語教育では、体験し実践する機会を確保し、コミュニケーション能力の育成に重点を置いた町田ならではの教育を進めます。

2 児童・生徒の体力の向上

共に競い合い高め合う機会や楽しく運動する機会を充実させ、児童・生徒の運動への興味・意欲を高めます。

さらに、運動部活動のあり方を見直し、生涯スポーツに取り組める多様な場となるような仕組みづくりを進めます。

3 キャリア教育※の推進

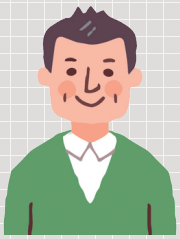
持続可能な社会の創り手に必要な社会的自立・職業的自立の基盤となる能力を育むため、キャリア教育を推進します。

また、多様な職業に対する興味・関心を高めるため、企業による出前講座や仕事の体験、学校ごとの取り組みの工夫、キャリア・パスポート※の効果的な活用など、体系的なキャリア教育を進めます。

関係する町田市の計画

●町田市教育プラン2019-2023

みんなの想い



子どもたちが仕事を体験できる環境を提供していきたい。

施策 2-3

教育環境を充実させる

施策実現によってなりたい姿

- 質の高い教育環境の下で、子どもたち一人ひとりの能力・可能性が育まれています。
- 子どもがいつでもどこでも誰でもそれぞれに適した方法・場所で教育を受けることができます。

なりたい姿の実現度を測る指標

	現状値	目標値
小学校・中学校の教育環境が整っていると思う市民の割合	33.3%（2021年度）	60.0%（2031年度）
学校に行くのが楽しいと思う児童・生徒の割合	小6 85.8% 中3 78.4% （2019年度）	小6 90.0% 中3 83.0% （2031年度）

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 学校施設は老朽化し、建物の更新や費用の平準化が課題です。国では、長寿命化計画に基づく予防的な改修工事を対象とする補助制度を拡充しています。
- 東京都は、国の「学校における働き方改革に関する緊急対策」を受け、教職員の負担を軽減するとともに、学校の運営体制について検討しています。

【町田市の現状・課題】

- 町田市立小・中学校は建設時期が1970年代に集中し、2021年4月時点で築30年以上の学校施設が55校となっており、老朽化施設の整備や改修、建替えを計画的に行うことが必要です。
- 子どもを取り巻く課題の複雑化や教育ニーズの多様化による学校教員の負担増を軽減するため、学校を支える人員体制の構築を進めています。
- 児童・生徒数は減少している一方で、特別な支援を必要とする児童・生徒の人数が増加しています。
- 中学校給食については、従来の選択制給食の利用が減少傾向にある中で、家庭環境の多様化に伴い、全員給食を求める声が多くなってきています。

【今後予想される課題】

- 学校統合などを契機とした建替えを行う学校において、質の高い学校施設の整備が必要です。
- “生きた教材”である学校給食を通して、子どもたちの食を正しく選び取れる力を強化していく必要があります。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 質の高い教育環境の整備

小・中学校の機能向上と老朽化対策を目的とした改修・建替えを計画的に進め、学校施設に求められる機能・性能の確保や、ライフサイクルコスト※の縮減を図ります。

また、成長期のすべての中学生に安全・安心で栄養バランスの整った「温かい給食」を提供するため、「給食センター方式による中学校全員給食」の導入に取り組みます。

2 学校のマネジメント力の強化

校務の見直しや専門的な知識を持った人材などを適切に活用し、複雑かつ専門的な教育ニーズに対応できる組織体制を整備します。

3 特別支援・不登校支援の充実

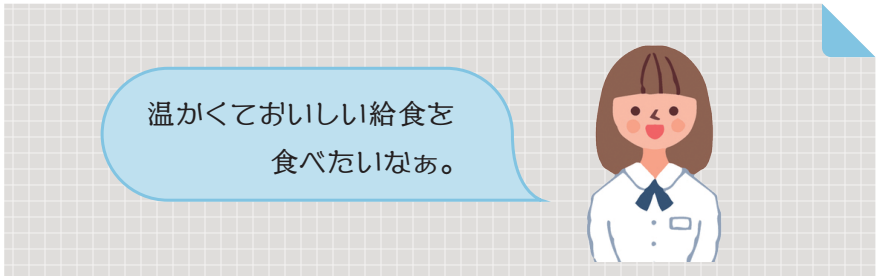
特別支援教育プログラムを改定し、すべての教員の特別支援教育に対する意識・指導力を向上させます。また、特別支援教室の環境を改善し、情緒障がいなどの生徒への指導内容の充実を図ります。

さらに、教育センターの適応指導教室などを拡充し、不登校児童・生徒の支援の充実を図ります。

関係する町田市の計画

- ●町田市教育プラン2019-2023
- ●みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画
- ●町田市立学校個別施設計画 ～学校整備計画編～
- ●町田市新たな学校づくり推進計画
- ●町田市立学校個別施設計画

みんなの想い



施策 2-4

地域の教育力を高める

施策実現によってなりたい姿

- **地域人材の経験やスキルをいかし、子どもたちが未来を生きる力を育むとともに地域人材の活躍の場を作り出す双方向の「連携・協働」型の活動が充実しています。**

なりたい姿の実現度を測る指標

学校は地域と一体となって子どもを育む場であると感じる保護者の割合

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- つながり、支え合いの希薄化などによる地域社会の教育力の低下が指摘されています。
- 従来の地域の個別活動を、学校と連携・協働して子どもの成長を支える地域学校協働本部へ発展させることを急務としています。

【町田市の現状・課題】

- 学校支援ボランティア※と学校ニーズの不一致による人材不足や学校ごとの取り組みの格差を解決した継続的・安定的な活動づくりを進めることが求められています。
- 学校が地域に支援してもらうだけでなく、地域と学校が共に育つための仕組みづくりが求められています。

【今後予想される課題】

- 高齢化による学校支援ボランティアの担い手の減少が予想される中で、担い手の確保や更なる人材の活用が求められます。
- 核家族化が更に進み、子どもたちが親と教員以外の大人に関わることが減ると予想される中で、地域による学びの必要性が高まっています。
- 学校施設を地域に開放するなど、学びたいときに学べる場を充実させることが課題です。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 学校と地域の協働

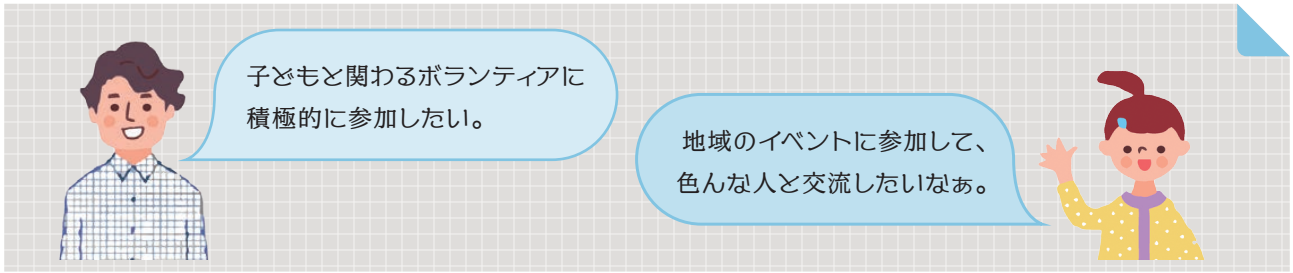
学校支援ボランティアを活用した授業づくりや多様な交流を通じて、児童・生徒に幅広い知識や能力を習得させるとともに、情操や人間性を育成します。

また、コミュニティ・スクール※を推進し、学校と地域住民が目標を共有することで、共に育つ学校と地域の協働体制を確立します。

関係する町田市の計画

●町田市教育プラン2019-2023

みんなの想い

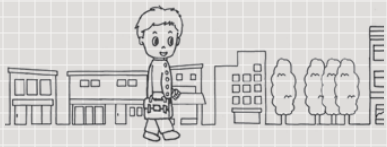


＼ 政 策 ／

3

自分らしい場所・時間を持てるまちになる

都市と自然が共存する町田市は、それぞれの思い描くライフスタイルを実現できるまちです。仕事でも遊びでも、自分らしくいられる場所や時間を持てることは、暮らしの質を向上させます。働き盛りの世代をはじめ、町田市で活動する人たちが充実した日々を過ごせるよう、多様な働き方に適した環境づくりや、地域資源の魅力向上、情報発信などを行っていきます。



POLICY

政策実現によってなりたい姿

様々な活動が生まれ、活気と魅力があふれる町田市のことを誰もが好きになっています。

政策実現にあたって意識する指標

居心地がいい場所と時間が町田市にあると思う市民の割合

現状値
76.4%
(2021年度)

目標値 ↑

現状と課題

技術革新や社会環境の変化を捉えながら、市内経済を活性化させることが重要であり、併せて、まち全体で新しい生活様式に適応していくことが求められています。

政策に紐づく施策

施策３-１
ビジネスしやすく、働きやすい環境をつくる

施策３-２
町田ならではの地域資源をいかす

施策 3-1

ビジネスしやすく、働きやすい環境をつくる

施策実現によってなりたい姿

- 多様な働き方が実現できるまちとして、多くの人に選ばれるとともに、ビジネスに適した環境として、多くの事業者からも選ばれるまちになっています。
- 立ち上げる・拡げる・つなぐチャレンジの支援を通じて、起業・創業がしやすい風土が根付き、事業から新しい価値が生み出されるとともに、優れた技術・ノウハウが次世代に受け継がれるまちになっています。

なりたい姿の実現度を測る指標

	現状値	目標値
付加価値額※	5,416億円（2016年）	6,000億円（2031年）

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 経済がグローバル化し、またICTの普及するスピードが加速しています。
- 生産年齢人口の減少に伴い、人手不足が深刻化しています。

【町田市の現状・課題】

- より多くの創業を後押しするとともに、創業後の事業拡大を支援することが必要です。
- 製品・サービスの差別化や新事業の展開などにより、市内事業者の競争力を強化するとともに、事業から生み出される価値を高めることが必要です。
- 後継者不足で自主廃業せざるを得ない「黒字廃業」のケースも見られ、よりよい状態で事業を続け、次世代へ事業を継承していくことが必要です。

【今後予想される課題】

- 経済の更なるグローバル化により、世界経済の競争や影響を受けやすくなります。
- 人口減少が進むことにより人材確保が課題になるほか、市場規模の縮小が見込まれます。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 起業・創業の支援

起業・創業の魅力を伝えるとともに、「町田創業プロジェクト※」を通じた支援に加え、多様な担い手による支援体制を構築し、起業・創業者や創業希望者を支援します。また、事業者の成長段階に応じた継続的な支援や、起業・創業後の事業拡大に必要なアフターフォローを進めます。

2 競争力強化の支援

新商品・新サービスへの挑戦の支援や、アイデアや技術の保護・権利化や有効活用に向けた支援を行います。また、町田産の商品・サービスの魅力を広く PR し「町田ブランド」の醸成を進めるほか、開発した商品やサービスの販路拡大を後押しします。

3 事業継続や承継の支援

安定した事業継続のため、経営相談や業務改善、人材確保・育成の取り組みを支援します。また、事業承継に関する情報発信や相談対応、承継希望者とのマッチングのほか、事業承継の手続きのサポートなど、「町田市事業承継推進ネットワーク」を構成する機関の専門分野をいかしながら幅広く支援します。

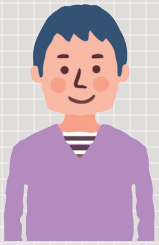
4 チャレンジを促進するための環境づくり

幅広い世代が働きやすい環境づくりを進めるとともに、中小企業従業者の福利厚生を支援します。また、中小企業者に対する資金調達の支援や産業情報の発信を行うほか、市内への事業所設置や事業拡大を支援します。

関係する町田市の計画

●町田市産業振興計画19-28

みんなの想い



市の支援を活用して、
新事業にチャレンジしたい。

施策 3-2

町田ならではの地域資源をいかす

施策実現によってなりたい姿

- 子育て・教育や経済・観光、スポーツ・生涯学習、地域活動などのまちの魅力が、「町田ならではの地域資源」として認識されています。
- メディアや口コミ、WEB（SNS※）などを通して発信されることにより、市内外の人の交流が生まれ、町田に対する市民の誇り・愛着や市外からの関心・憧れが育まれています。

なりたい姿の実現度を測る指標

	現状値	目標値
町田市に対して愛着や親しみを感じている市民の割合	87.5%（2021年度）	93.5%（2031年度）
観光入込客数	573万人（2020年度）	650万人（2031年度）

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国は、「観光立国」を掲げ、観光を成長産業として位置づけています。
- 人口減少や過疎化に伴い農業者と耕作農地の減少が進み、国内食品自給率は減少を続けています。
- 農地の活用や、遊休農地※の再生、離農対策、新たな担い手の育成に向け、各自治体への支援を行っています。
- 様々な生物を育む役割を担う里山※は、将来にわたり保全していくことが求められています。

【町田市の現状・課題】

- 「まちだ○ごと大作戦18-20[+1]」の実施により新たに生まれた人のつながりや地域の交流が深まる様子を「町田ならではの地域資源」として発信していくことが必要です。
- 町田ならではの知られざる観光資源をいかに発掘し、磨き上げるかが課題です。
- 農産物の販路が限られており、販売できる量に合わせた生産量となっています。
- 町田産農産物の販路について、直売所に加え、市民の多

様なライフスタイルや新たな生活様式に対応するため、生鮮食品ECサービス※を導入しました。
●里山環境の荒廃が進行する一方で、里山に興味を持つ人や実際に来訪する人が増えています。

【今後予想される課題】
●豊富な観光資源をいかし、町田市の魅力を体験できる観光施策が必要です。
●農業者と農地の減少を防ぐため、就農者が安定した農業収入を得られるよう、販売量を増やす取り組みが必要です。
●鮮度の高い安全・安心な町田産農産物を誰もが購入しやすい環境と、その需要に見合う生産量の確保が求められます。
●里山環境を再生し、時代に即した循環サイクルの構築が求められます。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 シティプロモーション※の推進
市民、地域団体、事業者など多様な主体の活動が市内各地域で広がり、新たな活力が生まれ続ける様子を、まちの魅力として市内外に情報発信します。

2 観光まちづくりの推進
市民と行政が歴史、自然、文化などの地域素材を見つめ直し、磨き上げることで、交流を生む観光まちづくりを進めます。

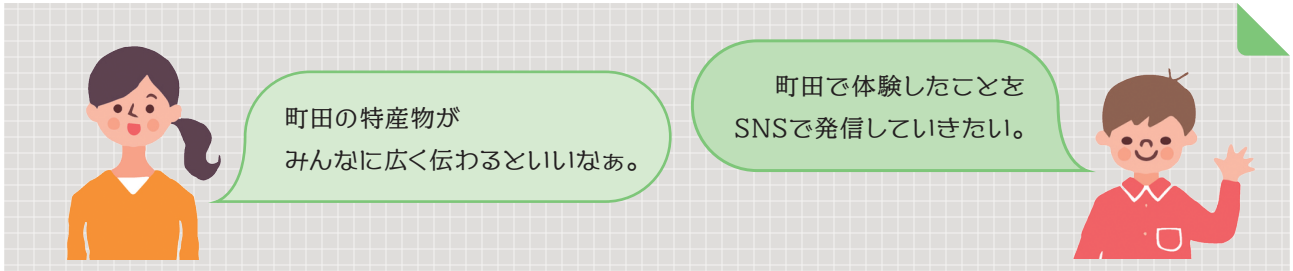
3 身近に農のあるまちづくり
町田市の農業が市民生活に不可欠なものとなるよう地産地消などを推進し、消費者と生産者の距離が近い都市農業のメリットを最大限にいかします。

4 里山環境の活用と保全
東京都心から程近いという特徴をいかしながら、多様な主体が連携・協働し里山環境を活用することで、将来にわたって持続可能な保全の仕組みを構築します。

関係する町田市の計画

●まちだシティプロモーション基本計画22-26
●町田市観光まちづくり基本方針
●第4次町田市農業振興計画
●町田市里山環境活用保全計画
●町田市都市づくりのマスタープラン
●第3次町田市環境マスタープラン

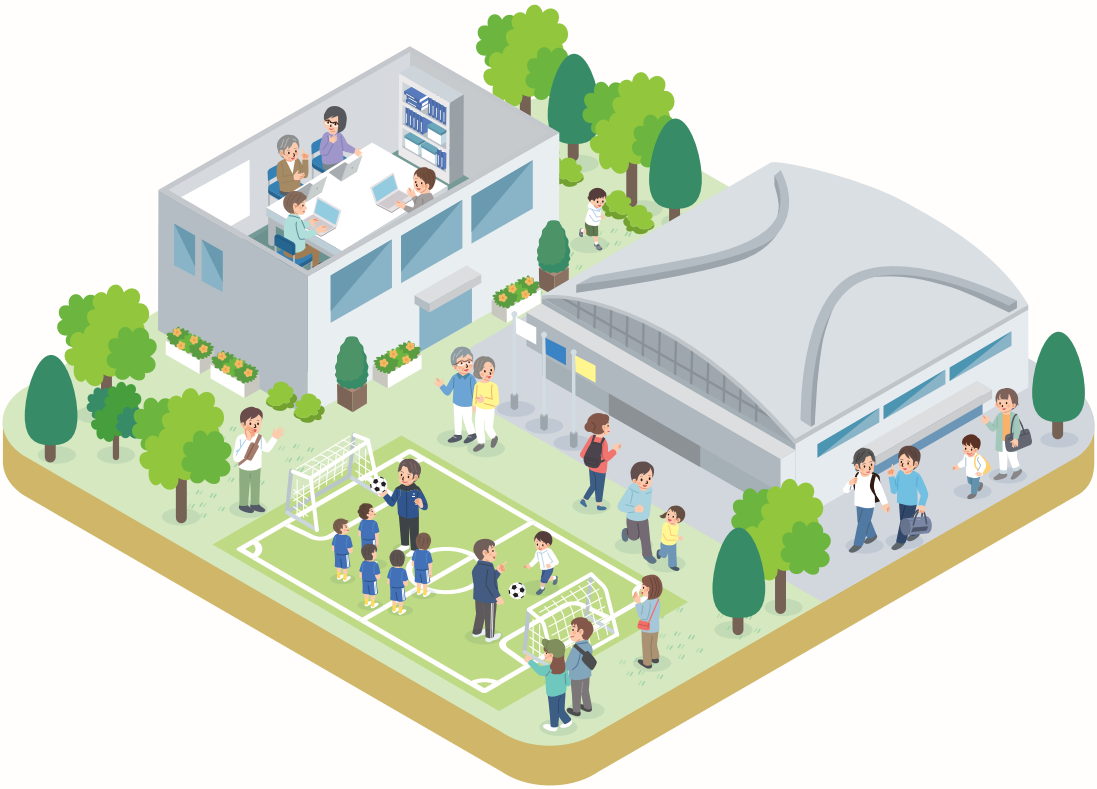
みんなの想い



＼ 政 策 ／

4

いくつになっても自分の楽しみが見つかるまちになる



人生100年時代において、中年期はまだ人生の折り返し地点を過ぎたあたりです。今のキャリアを成熟させるとともに、現段階からセカンドキャリア※を見据えた学びや活動を始めることで、より充実した人生設計が可能となります。いくつになっても、打ち込めるものが見つけられるよう、生涯学習の支援や、スポーツ環境の充実などを図っていきます。

POLICY

政策実現によってなりたい姿

仕事や家庭からはなれても、地域で学習やスポーツに触れる機会があり、暮らしを豊かにできる居場所があります。

政策実現にあたって意識する指標

市内で学習やスポーツに触れる機会があった市民の割合

現状値 32.9%（2021年度） ▶ 目標値 ↑

現状と課題

高齢者の担う社会的な役割が多様化している中、セカンドキャリアを見据え、いつでもどこでも学びやすい環境づくりや、元気な体を維持していくことなどが求められています。

政策に紐づく施策

施策４-１
生涯にわたる学習の「しやすい」を支援する

施策４-２
スポーツへの参加機会を充実させる

施策 4-1

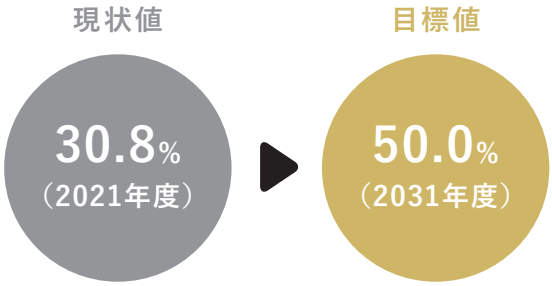
生涯にわたる学習の「しやすい」を支援する

施策実現によってなりたい姿

- いつでもどこでも学習しやすい環境が整い、学びの機会を逃さないようになっています。
- 学びの成果を発信しやすく、受信しやすいようになっています。
- 学習資源のデジタル化が進むことにより、学びにアクセスしやすい環境になっています。

なりたい姿の実現度を測る指標

生涯学習活動を行う機会を持つことができた市民の割合



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国は、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価され、それをいかして様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりに取り組んでいます。
- 国は、超高齢社会への対応として、職業に必要な知識やスキルを生涯通じて身に付けるための社会人の学び直しを推進しています。

【町田市の現状・課題】

- 生涯学習に関する意識調査によると、学びの機会やきっかけを失っている現状がある一方で、習得した知識や技能を他者のためにいかすことに対するニーズがあります。そのため、多様な学びの機会や場所の創出、学習成果をいかす機会の充実が課題です。
- 必要とする知識や技能を身につける上での情報の入手先はインターネットが多く、それを活用した、学びの提供も課題です。

【今後予想される課題】

- コロナ禍を契機に新たな生活様式が求められることに伴い、ICTを活用するなどして、新しい学びの環境を整えていくことが必要です。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 学びに出会う機会の充実

市民が身近な場所で学習に触れる機会として、地域の公共施設などで、関係機関と連携したイベントや講座を行います。

また、様々なライフスタイルの市民が学べるよう、電子書籍サービス、歴史・文化資源などのデジタル化を行い、いつでもどこでも学ぶことができる環境づくりを推進します。

2 学習成果をいかす機会の充実

市民が学んだ成果をいかして地域の中で活動できるよう、必要な知識や技能を習得できる機会を提供します。また、市民同士の学び合いの輪を広げるため、学びを深めた人たちが地域で活動することを支援します。

関係する町田市の計画

●町田市教育プラン2019-2023
●町田市生涯学習推進計画2019-2023

みんなの想い

同じ趣味の仲間とつながれる
イベントや機会が身近な場所で
開かれているといいなぁ。

施策 4-2

スポーツへの参加機会を充実させる

施策実現によってなりたい姿

- 「スポーツで人とまちが一つになる」を実現しています。
- 市民誰もがスポーツを楽しむことができ、スポーツを通じて様々な主体が連携して、まちの賑わいと魅力が生まれ、市民の愛着・誇りが高まっています。

なりたい姿の実現度を測る指標

	現状値	目標値
スポーツ実施率※	62.6%（2020年度）	70.0%（2031年度）
「する」「みる」「支える」に関わった市民の割合	92.8%（2020年度）	95.0%（2031年度）

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 大規模な国際的スポーツイベントのレガシー※を都民のスポーツ振興に活用し、多様な主体の自主的・恒常的なスポーツ活動を定着させることが必要です。

【町田市の現状・課題】

- 30代・40代のスポーツ実施率が低いことなどを踏まえ、ライフステージに応じた取り組みなどにより、スポーツ実施率の向上を図ることが必要です。
- 多摩26市で比較すると、市の人口に対してスポーツ施設の数が少ないため、市民の生活に身近なスポーツ環境の整備が必要です。

【今後予想される課題】

- 健康志向の高まりにより、機会があればスポーツを実施したいと考える人の増加が見込まれます。
- 運動やスポーツに苦手意識を持った子どもに対応することが求められます。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 スポーツに親しむきっかけづくり

市民誰もが、いつでもどこでもスポーツに参加できるよう、スポーツに親しむきっかけを充実させます。

2 スポーツに関わる人材と組織の充実

スポーツ関係団体をはじめ、町内会・自治会などとも組織間の情報共有や協働を推進し、スポーツを支える人材と組織を充実させます。

3 スポーツ環境の充実

市民が生活に身近な場所でスポーツに親しむことができるよう、「する」と「みる」視点から、スポーツ環境の充実に取り組み、市民の行動の変化を促すとともに、行動を継続したくなる環境の整備に取り組みます。

4 スポーツを通じたまちづくり

トップスポーツチームを擁する町田市ならではの魅力を活用し、地域の活性化、まちの魅力向上に取り組みます。また、市民に的確にスポーツ情報を提供していくとともに、市内外にスポーツイベントなどの情報を発信します。

関係する町田市の計画

●町田市スポーツ推進計画19-28

みんなの想い

一緒にスポーツする仲間を作って、
輪を広げたいなぁ。

＼ 政 策 ／

5

人生の豊かさを実感できるまちになる

団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年に向かって高齢化は更に進み、高齢者への支援に関するニーズは一層の増加と多様化が見込まれます。高齢になっても人生の豊かさを感じながら地域で暮らすことができるよう、いきいきと暮らせる環境づくりや、高齢者を地域全体で支えていく体制づくりなどを行っていきます。

POLICY

政策実現によってなりたい姿

地域が「支え手」「受け手」という関係を超えて支えあい、
高齢者が健やかで自分らしさを感じることができています。

政策実現にあたって意識する指標

生きがいを持って
暮らしている高齢者の割合

現状値
76.4%
(2021年度)

目標値

現状と課題

高齢化が急速に進行する中、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、高齢者、地域、行政が協働し、地域課題の解決に向けた取り組みを強化していく必要があります。

政策に紐づく施策

施策５-１
高齢者が地域でいきいきと
暮らせる環境をつくる

施策５-２
高齢者を地域で支える
体制をつくる

施策 5-1

高齢者が地域でいきいきと暮らせる環境をつくる

施策実現によってなりたい姿

- 高齢者が住み慣れた地域で、地域の一員としていきいきと暮らすことができています。

なりたい姿の実現度を測る指標

	現状値	目標値
高齢者の地域活動参加率	前期高齢者 71.0% 後期高齢者 58.8% （2019年度）	前期高齢者 79.0% 後期高齢者 66.8% （2031年度）
高齢者の主観的健康感	84.7% （2019年度）	89.0% （2031年度）

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国の「健康寿命延伸プラン」では、2040年までに健康寿命を3年以上延伸するための取り組みの柱の1つとして、介護予防※・フレイル※対策、認知症予防を位置づけ、実施拠点となる通いの場※を大幅に拡充することとしています。
- 国は、「保険者機能強化推進交付金」を2018年度に創設し、高齢者の自立支援、重度化防止などに関する取り組みを推進しています。

【町田市の現状・課題】

- 地域における介護予防の場づくりや、運動、栄養、口腔に関する専門職による講座の開催など、保健医療の視点を入れた取り組みも進めています。
- 町田市の介護予防に資する通いの場（週1回以上の開催）の総数は、多摩26市で1位です。

【今後予想される課題】

●市の高齢者人口は増加を続け、2040年には高齢化率は約36%、うち半数以上が後期高齢者となる見込みです。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 社会参加と生きがい・健康づくりの推進

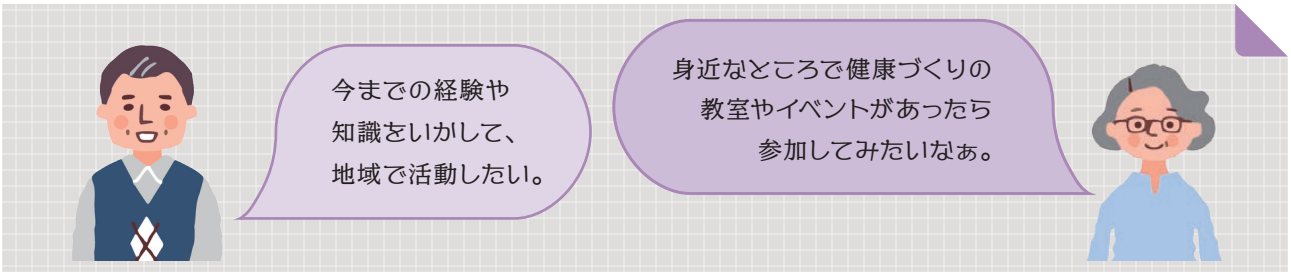
身近な場所で介護予防に取り組める通いの場の立ち上げや、活動継続の支援、就労を含めた社会参加を推進します。

また、介護予防の取り組みに保健医療職による健康教育や健康相談などの支援を取り入れ、より効果的な介護予防と健康づくりを推進します。

関係する町田市の計画

●町田市いきいき長寿プラン21-23

みんなの想い



施策 5-2

高齢者を地域で支える体制をつくる

施策実現によってなりたい姿

- 支援が必要になっても、支え合いにより住み慣れた地域で生活できています。
- よりよい介護サービスを安心して利用し続けることができています。

なりたい姿の実現度を測る指標

	現状値	目標値
在宅療養を希望し、実現可能だと思う高齢者の割合	28.3%（2019年度）	33.0%（2031年度）
必要とする職員数を確保できていると考えている介護保険事業所の割合	48.0%（2019年度）	60.0%（2031年度）

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国は、包括的かつ継続的な在宅医療と介護を一体的に提供する体制の構築を推進しています。
- 国は、「認知症施策推進大綱」を策定し、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進することとしています。

【町田市の現状・課題】

- 増加する在宅療養※の需要に対応するには、医療と介護の専門職がそれぞれの強みや専門性をいかし、連携して高齢者支援を行うことが必要です。
- 認知症の人やその家族の視点を重視した地域づくりが求められます。
- 介護職員離職率は改善傾向にあるものの、依然とし

て厳しい状況が続いています。

【今後予想される課題】

- 高齢者人口が増加し、在宅療養の需要が高まることが想定されます。
- 介護人材不足がこれまで以上に深刻化することが予想されます。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 在宅療養を支える医療・介護連携の推進

在宅療養を必要とする高齢者に対し、医療と介護サービスを切れ目なく一体的に提供するため、情報集約や課題の整理を行い、医療と介護の専門職が参画する協議の場で課題解決を図ります。

2 認知症とともに生きるまちづくりの推進

認知症になっても住み慣れた地域で安心して住み続けることができるよう、認知症の人やその家族と地域のつながりの場づくりや認知症の正しい知識の普及に取り組みます。

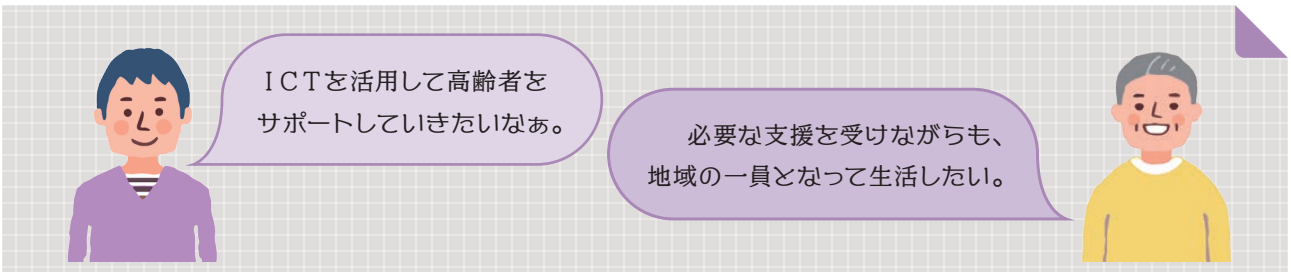
3 介護人材の確保・育成・定着

元気な高齢者や子育てが一段落した方など、多様な介護人材の確保や、中核となる専門人材の育成・定着に重点的に取り組み、介護サービスの人的基盤の整備を進めます。

関係する町田市の計画

●町田市いきいき長寿プラン21-23

みんなの想い

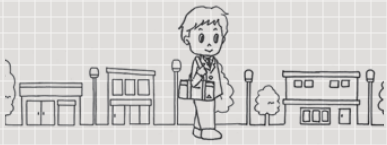


＼政策／

6

つながりを力にする まちになる

私たちの生活は、地域に暮らす様々な人との関わりの上に成り立っています。その中で活躍する人や団体を支えていくことが、特色ある地域づくりの一助となり、また、みんなで実現を目指す目標の達成に寄与します。地域におけるつながりを力にできるよう、支え合える基盤をつくるとともに、その基盤に基づく持続可能な生活環境づくりなどを行っていきます。



POLICY

政策実現によってなりたい姿

「自分ゴト」としての活動が市内の各地域で生まれ、
その成果があらゆる分野に活用されています。

政策実現にあたって意識する指標

	現状値	目標値
地域活動に参加したことがある市民の割合	25.8%（2021年度）	↑
困ったときに助けてもらえる人がいる市民の割合	73.0%（2021年度）	↑

現状と課題

価値観やライフスタイルの変容により、地域課題が複雑化・多様化する中、世代や分野を越えてつながり、それぞれが「自分ゴト」として地域課題に取り組むための基盤が求められています。

政策に紐づく施策

施策６-１
つながり、支え合える基盤をつくる

施策６-２
みんなで将来に受け継ぐ持続可能な環境をつくる

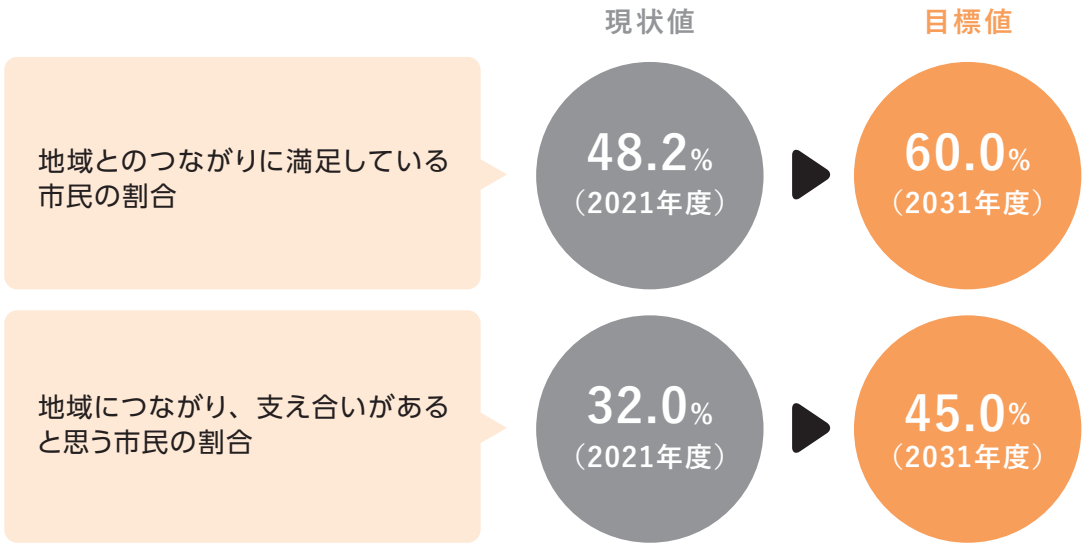
施策 6-1

つながり、支え合える基盤をつくる

施策実現によってなりたい姿

- 地域や人との多様な関わり方がある中で、「自分ゴト」として地域活動への参加がしやすい状態になっています。個人の「やりたいこと」「できること」と地域ニーズとのマッチングが進み、より多くのつながりが創出されています。
- 市民、事業者、行政などが一体となって地域課題の解決に取り組むことで、新たなアイデアや活力が創出されています。
- 地域自らが地域の課題を把握し、支援につなげることができています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国は、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応するため、「重層的支援体制整備事業」を実施し、多分野協働のプラットフォームを構築することとしています。
- 地域で暮らす人々が中心となり、地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に行う地域運営組織の数は、全国的に増加しています。また、地域運営組織がない市区町村の多くがその必要性を感じています。

【町田市の現状・課題】

- 地区協議会は、2014年に小山・小山ヶ丘地区で初めて設立され、現在市内全10地区で活動が行われています。一方で、活動の中心となる人の固定化が散見されはじめ

ており、新たな担い手や手法を見出すなど、次の一手が求められます。

- 地域の福祉課題の把握や解決に向けて、毎年度、市と町田市社会福祉協議会の共催で開催している地域との地区別懇談会では、若年層や企業の参加が少ない状況です。
- 地区協議会や地区別懇談会をはじめとした地域活動に、「自分ゴト」として参加してもらうこと、また、地域の様々な主体がやりたいことの実現に向けて具体的に取り組むことができる仕組みづくりが課題です。

【今後予想される課題】

- 子育て世代など若い世代の積極的な地域活動への参加の促進が課題です。
- 行政に加え、市民、NPO※をはじめとする各種団体や事業者などが主体となり、課題を解決する体制の構築が求められます。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 コミュニティ活動の支援

町内会・自治会と地区協議会に対する支援を引き続き行います。また、地域ニーズとそれに対応する活動やサービスのマッチングが進むよう支援します。

2 多様な主体による地域課題の解決

市民、各種団体、事業者、行政など多様な主体が地域課題の解決に向けて取り組める体制づくりを支援します。また、地区協議会が地域の中核として、地域課題の解決によりよく取り組めるような環境を整備します。

3 地域での見守り・支え合い

地域の見守り・支え合い活動と協働することで、早期に地域の困りごとを把握し支援へつなげます。また、地域自らが地域の困りごとを把握できるよう、市民、事業者、行政などが地域の課題を話し合う機会を創出します。

そして、地域で把握した困りごとを適切な支援機関につなぐことができるよう、地域における相談支援体制を構築します。

関係する町田市の計画

●町田市地域ホッとプラン

みんなの想い

近所の人と普段から
コミュニケーションを
とっていきたい。

つながる場やイベントに
積極的に参加します。

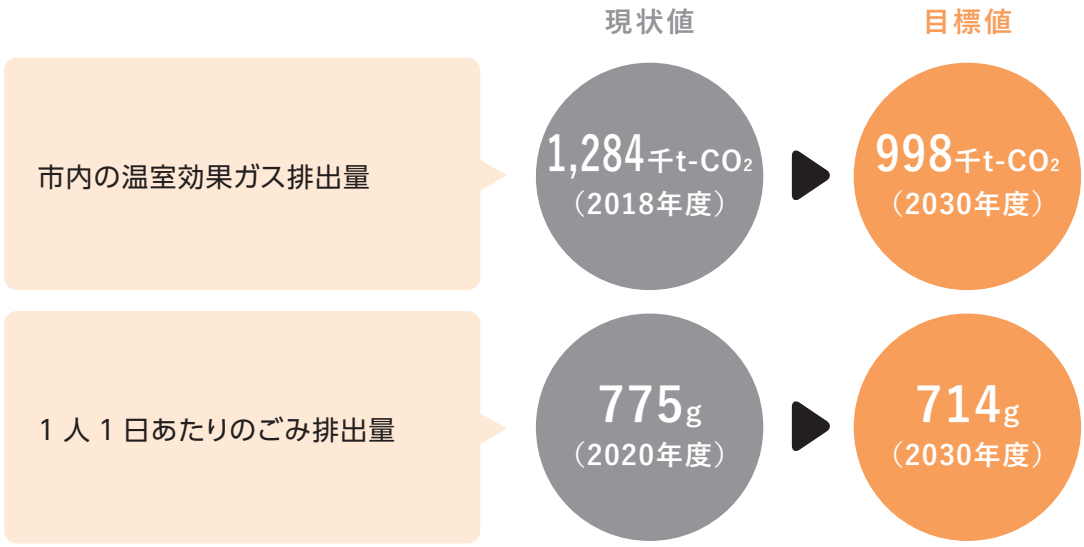
施策 6-2

みんなで将来に受け継ぐ持続可能な環境をつくる

施策実現によってなりたい姿

- 市民、事業者、行政が協力して、地球温暖化対策や生物多様性※の保全に取り組み、次の世代が暮らしやすい環境が受け継がれています。
- 市民、事業者、行政が協力して、ごみの発生抑制、適正処理、リサイクルを行っています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都に関する現状・課題】

- 国は、2050年までに温室効果ガス※の排出を実質ゼロとする目標を打ち出しています。また、SDGsの採択後、食品ロス対策など循環型社会※の形成に関する取り組みに力を入れています。
- 東京都は、3Rの推進、プラスチック対策、食品ロス対策などにより2050年にCO_2排出実質ゼロを目指しています。

【町田市の現状・課題】

- 市内における温室効果ガスの排出量は、近年横ばい状態です。地球温暖化対策の観点から更なる排出量削減が必要です。
- 資源を含む総ごみ量は減少傾向にありましたが2019年度に増加へ転じています。1人1日当たりごみ量は多摩26市で20位となっており、引き続きごみの減量を進めることが必要です。

【今後予想される課題】

- 地球温暖化に起因すると見られる異常気象や気候変動などによる生活･自然環境悪化のリスクが高まっており、市民生活への影響が懸念されます。
- 食品ロスやプラスチックごみの削減、使用済紙おむつの再生利用など、社会情勢や環境変化に対応したごみ減量施策を展開する必要があります。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 地球温暖化対策の推進

市民、事業者、行政が連携・協力して、温室効果ガスの排出量削減などに取り組みます。また、気候変動の影響に対処する適応策に取り組みます。

2 ごみの発生抑制･資源化の推進

食品ロスの削減をはじめとした生ごみの発生抑制や、プラスチックごみ・古紙・その他のごみの発生抑制、分別の協力を促す取り組みを進めます。

また、子どもから大人まで、市民一人ひとりがごみに関する問題について「自分ゴト」として取り組めるよう啓発します。

3 生物多様性の保全

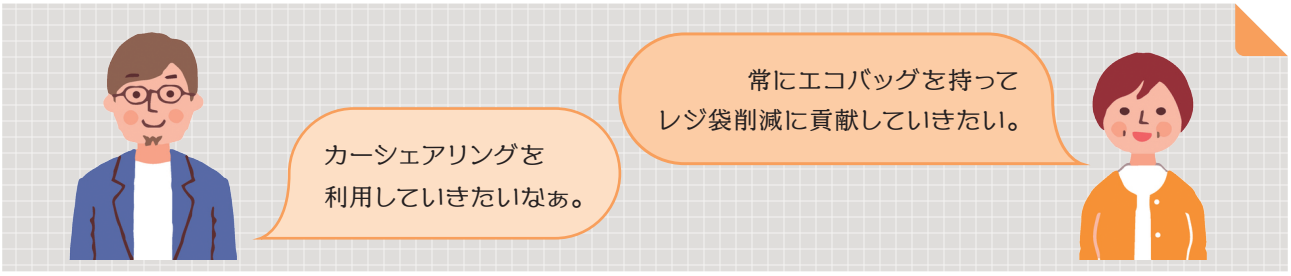
多様な生きものが生育・生息する環境を保全することを目指し、市民、事業者へ生物多様性保全の意義や大切さを伝えます。

また、町田市の生きものの生育・生息地の現状を把握し、保全の取り組みを検討、実施します。

関係する町田市の計画

- 第3次町田市環境マスタープラン
- 第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画

みんなの想い



＼政策／

7

ありのまま自分を表現できるまちになる

年齢、性別、国籍の違いや障がいの有無などに加え、いろいろな考え方の人たちが暮らしているということが、町田市の未来を考える上での前提です。お互いを尊重し、認め合うことで、みんながありのままの自分というものを表現できるよう、一人ひとりの個性を大切にする地域づくりや、文化芸術に親しめる環境・機会の充実などを図っていきます。

POLICY

政策実現によってなりたい姿

誰もが生きづらさから解放され、いろいろなかたちで
自分の思いや考えを発することができています。

政策実現にあたって意識する指標

自分らしく生活できている
市民の割合

現状値
83.1%
(2021年度)

目標値

現状と課題

インターネットの普及とともに、SNSなど、個人の意思表明ができる場が広がっている一方、匿名で簡単に誰かを批判することもできてしまうため、一人ひとりのモラル向上がより一層求められています。

政策に紐づく施策

施策7-1
一人ひとりの個性を
大切にする地域をつくる

施策7-2
文化芸術に親しめる
環境・機会を充実させる

施策 7-1

一人ひとりの個性を大切にする地域をつくる

施策実現によってなりたい姿

- 誰もが安心して快適に住み続けることができる地域社会になっています。
- 必要な人に、必要となる配慮や支援が届けられる環境が整っています。
- 一人ひとりの人権を尊重し認め合い、その人の個性と能力を十分に発揮することで、その人らしくいきいきと生きることができています。

なりたい姿の実現度を測る指標

性別、信条、職業、国籍、障がいなどによる差別がないと思う市民の割合

現状値	目標値
81.8%（2020年度）	85.0%（2031年度）

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」と東京都の「東京都障害者への理解促進及び差別解消の推進に関する条例」では、行政機関や事業者に障がいのある人に対する不当な差別的取扱いの禁止と合理的配慮の提供を義務付けています。
- 日本のジェンダーギャップ指数※（男女平等指数）は世界と比べ遅れをとっています（2021年は120位/156か国）。
- 国の「成年後見制度※の利用の促進に関する法律」では、市民後見人※の育成と活用について一層の充実を図ることとしています。

【町田市の現状・課題】

- 障がい者差別の解消に向けた取り組みの推進が求められます。
- 市民アンケートによると、「社会全体」、「政治」、「学校教育」の場における男女の平等感の数値は、国と東京都と比較して、下回っている状況です。
- 町田市の市民後見人の受任数は、50件（2020年12月末までの延べ件数）で、多摩26市で1位です。

【今後予想される課題】

- 近年、性の多様性についての関心が高まり、男女平等だけでなく性的マイノリティ※の方への配慮も求められます。
- 認知症高齢者や単身高齢者・障がい者世帯の増加が見込まれる中、更に成年後見制度の利用のニーズは高まってくると考えられます。また、親族以外の第三者後見人の需要も増加することが見込まれます。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 人権擁護・差別解消の推進

男女平等参画や性の多様性への理解を深めるため、市民に対し講座や講演会を開催し、情報発信や学習機会を提供します。

2 障がいに応じた配慮や支援

障がい者差別解消の推進に係る条例を制定し、障がい者差別の問題を広く市民、事業者などに周知するとともに、障がいに対する理解の促進を図ります。

また、法令や相談窓口を周知するなどの取り組みを進めます。

3 権利擁護支援の充実

判断能力が低下した人も、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、成年後見制度の利用を支援します。また、成年後見制度の利用を促進するため、地域を支える市民後見人を育成し、その活動を支援します。

関係する町田市の計画

●町田市障がい者プラン21-26
●一人ひとりがその人らしく生きるまちだプラン
●町田市地域ホッとプラン
●町田市福祉のまちづくり推進計画

みんなの想い

誰にとっても安心できる
のびのびと過ごせる
まちになってほしい。

施策 7-2

文化芸術に親しめる環境・機会を充実させる

施策実現によってなりたい姿

- 「いつでも、どこでも、だれでも、あらゆる文化芸術を楽しむまち」になっています。

なりたい姿の実現度を測る指標

	現状値	目標値
市内で文化芸術活動に触れる機会を持つことができた市民の割合	13.0%（2021年度）	30.0%（2031年度）
文化施設利用率の平均値	61.6%（2019年度）	70.0%（2031年度）

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国の「文化芸術基本法」では、文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業など、各関連分野における施策との有機的な連携という考えが組み込まれています。
- SNSやWi-Fi※などの普及により、文化芸術イベントの開催方法や情報発信手法が多様化しています。

【町田市の現状・課題】

- 新たな情報発信の手法などを効果的に活用し、文化芸術施策を推進していくことが必要です。
- 一部の文化施設では、建物の老朽化や利用者数・利用率の伸び悩みの課題を踏まえ、文化施設の今後のあり方を検討することが必要です。

【今後予想される課題】

- コロナ禍の経験を踏まえ、不測の状況下における施設運営や利用方法の制限に対する柔軟な対応・支援が求められます。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 文化芸術に触れる機会の創出

文化芸術の概念を拡大しながら、鑑賞、参加、創造する機会を拡充します。

2 市民主体の文化芸術の活動支援

次代を担う子どもたちの創造性を育む取り組みや、町田市の文化芸術資源をより発展的に活用・向上できる人材や活動の支援を行います。また、それらの取り組みを支援する人同士のつながりを推進します。

3 身近に文化芸術に親しめる環境づくり

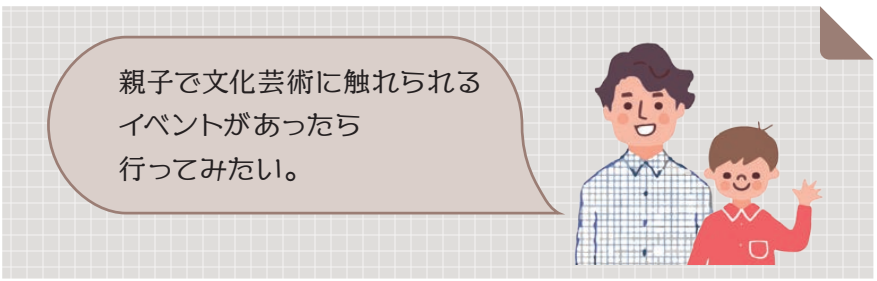
文化施設を有効活用し、文化芸術に関する活動の場の維持や活性化を図ります。

また、身近な文化芸術や町田発の新たな文化芸術を市の魅力として効果的に発信することで、市民や来訪者の興味・関心を高め、一人でも多くの人が文化芸術に親しめる環境をつくります。

関係する町田市の計画

●町田市文化芸術振興施策の基本方針

みんなの想い



＼政策／

8

思わず出歩きたくなるまちになる

便利で快適な交通や、多様な住まい・公共空間、身近に触れられるみどり、このようなものを整えていくことでまちは成長し、私たちの暮らしは潤いあるものとなります。これから先、町田市が思わず出歩きたくなるまちでいられるよう、気軽に出かけてつながれる環境づくりや、健やかで心地よい時間を過ごせる環境づくりなどを行っていきます。

POLICY

政策実現によってなりたい姿

人々の活発な交流が生まれ、まちが成長し続けています。

政策実現にあたって意識する指標

市外の人に薦めたい場所が
思い浮かぶ市民の割合

現状値 74.7% (2021年度) ▶ 目標値 ⬆

現状と課題

都市の発展には人の移動が大きく関係する一方、オンラインでのコミュニケーションが当たり前の時代を迎え、何をリアルで、何をバーチャルで提供していくかを見定めていくことが求められています。

政策に紐づく施策

施策８-１
気軽に出かけてつながれる
環境をつくる

施策８-２
ライフスタイルに合わせて
自分らしくまちを使えるようにする

施策８-３
健やかで心地よい時間を
過ごせる環境をつくる

施策 8-1

気軽に出かけてつながれる環境をつくる

施策実現によってなりたい姿

- 多様な交通手段の中から自分に合った方法を選んで、目的地まで快適に移動ができています。多くの人が市内への外出を楽しいと感じており、まちなかで活動する人が増えています。
- 日常生活に必要なモノ・サービスに簡単にアクセスできる環境が整っています。多くの人が市内で活動する便利さや快適さを感じており、様々な活動の場として選ばれています。

なりたい姿の実現度を測る指標

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 多摩都市モノレールの町田方面延伸、小田急多摩線の延伸が計画されています。
- 国の「地域公共交通活性化再生法」では、地域の多様な輸送資源を総動員して、まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークを形成することが求められています。
- 国の「自転車活用推進法」では、自転車の活用による環境や交通課題の解決、健康増進などが求められています。
- 第5世代移動通信システム(5G)の商用化により、高速・大容量・低遅延・多接続の通信をいかした様々なサービスが展開されています。

【町田市の現状・課題】

- 市外へのアクセスを担う鉄道駅が市域の外縁部に位置しています。
- 地域の発意で、団地などの地域内での移動を支え合う取り組みが始まっています。
- 町田駅周辺などでは、コワーキングスペースやシェアオフィス※の立地が拡大しています。
- 自転車の走行環境の整備が必要です。
- 誰でも快適・便利に移動できる都市基盤の整備やバリアフリー化が求められています。

【今後予想される課題】

- リニア中央新幹線が開業を予定している、橋本駅に近い相原駅・多摩境駅周辺では、人やモノの流れが大きく変わることが予想されます。
- 自動運転技術やMaaS※、次世代通信など暮らし方を変える先端技術や、「シェア」などを前提とした新たな暮らし方に対応した都市の整備を検討していくことが必要です。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 移動しやすい交通体系の構築

地域の中を快適に移動できる地域内のモビリティ※や、地域の輸送資源を活用する仕組みなど、自宅周辺を快適に移動できる「小さな・ゆったりとした」交通を育てます。

速達性・定時性を備えた輸送力のある交通基盤や交通拠点、これらを支える都市基盤を整備し、市内と市外、拠点間をつなぐ「大きな・速い」交通を整えます。

2 便利で快適な日常生活をおくれる環境の整備

市民の時間の使い方が変わり、市内が活動のフィールドになることを踏まえて、「住む・働く・学ぶ・交流する・憩う・楽しむ・体験する」などの多様な活動が、思ったときに気軽に実現できる空間や機能を整えます。

関係する町田市の計画

●町田市都市づくりのマスタープラン

みんなの想い

市内へのアクセスが充実すると、
もっと出かけやすくなるなぁ。

施策 8-2

ライフスタイルに合わせて自分らしくまちを使えるようにする

施策実現によってなりたい姿

- 拠点駅の近くは「働く」「遊ぶ」「集う」「住む」など多様な使い方ができるとともに、歩く目的に溢れています。楽しい時間を過ごすことができ、新しいことが生まれ、人々の出会いや活動のつながりが広がり続けるようなまちが形成されています。
- 多様な選択肢から自分に合った住まいや働き方が選べています。市内だけでなく市外からもライフステージに合わせた住み替えが進み、多世代交流・共生のまちが形成されています。
- 身近な公園や農地などのオープンスペース※を柔軟に使える環境と、多様な活動を推進する仕組みが整っています。多くの人が身近なオープンスペースで思い思いに活動し、日常的にまちを使うことで地域への愛着が醸成されています。

なりたい姿の実現度を測る指標

自分が住む地域での生活に満足している市民の割合

現状値	目標値
77.0%（2021年度）	90.0%（2031年度）

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 全国的に空家・空き地が増加傾向にある中で、多様な活用方法が検討されています。
- 全国的に住宅団地では、施設の老朽化や居住者の高齢化が進んでおり、まちの再生・活性化に向けた検討がされています。
- 国の「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」では、都市の生産性を向上するイノベーションを起こすような企業は、合理性よりも、そのまちに偶然の出会いがあったり、歩きやすかったり、安全だったりと、まちの「居心地のよさ」を求めており、その結果、クリエイティブな企業が集積し都市の生産性に直結する、と提言しています。
- 国は、車中心のまちづくりから、人中心のまちづくりへと転換を図るため、「まちなかウォーカブル推進プログラム」事業を推進しています。

【町田市の現状・課題】

- 1960年代から急激な都市化が進み、住宅地の形成に応じて人口が流入してきたことで、各地域で年齢構成が偏ったまま住宅地が成長・成熟しています。
- 比較的初期に開発された住宅地（市南東部など）や、大規模集合住宅団地では顕著な高齢化が進んでいます。
- 中心市街地では、歩行者のための憩いの空間が不足しており、来街者がゆっくりと買い物や食事を楽しめるゆとりのある憩いの空間創出が求められます。

【今後予想される課題】

- 社会状況に合わせた多様性や多機能性のある都市づくりが求められます。
- リモートワークなどの普及により、市内で過ごす時間が増えることで、住まい周辺の活動場所が求められるようになります。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 多様な暮らし方や働き方を支える空間づくり

多様化するライフスタイルや価値観に合わせて市内で「ちょうどいい住まい」が選択できるような、多様性や多機能性のあるまちの空間をつくります。

2 オープンスペースの活用

空き地、公園、農地、道路など今ある地域資源を、ライフスタイルの変化や地域ニーズに合わせて上手に活用し、新しいまちの価値を生み出します。

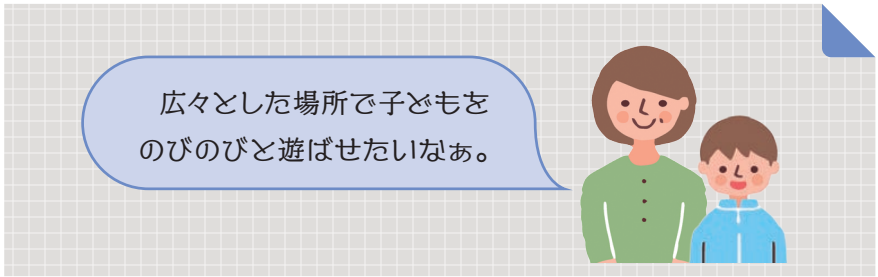
3 新たな賑わいと交流の創造

拠点駅周辺で、楽しい時間を過ごすことができ、新しいことが生まれ、人々の出会いや活動のつながりが広がり続けるようなまちづくりを進めます。また、道路空間をはじめとする公共空間の活用や、歩行空間の安全性向上を図り、まちの資源の魅力を高めます。

関係する町田市の計画

- 町田市都市づくりのマスタープラン
- 町田市中心市街地まちづくり計画

みんなの想い



施策 8-3

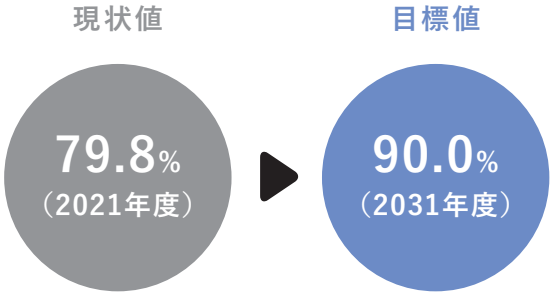
健やかで心地よい時間を過ごせる環境をつくる

施策実現によってなりたい姿

- 地域の特色に合わせたみどりの空間づくりにより、多彩で豊富なみどりがまちを象徴する魅力の一つに育っています。多くの人がみどりの中で日常的に心地よい時間を過ごし、みどりを馴染み深い場所と感じています。
- みどり（公園、農地、里山など）を活用した地域住民の能動的な活動が促され、地域内資源の循環が促進されています。
- 都市農地※の保全と利活用により、農地の多面的機能が発揮されています。

なりたい姿の実現度を測る指標

みどりの環境に満足している市民の割合



現状と課題

【国や東京都に関する現状・課題】

- 「都市公園法」では、民間活力の導入など都市公園の再生・活性化を推進しています。
- 東京都の「都市計画公園・緑地の整備方針」と「緑確保の総合的な方針」では、みどりの総量の維持を掲げ、特定生産緑地※も守るべき緑として位置づけています。
- 生産緑地※の多くが2022年に指定から30年を迎え、一斉に買取りの申出ができるようになります（2022年問題）。

【町田市の現状・課題】

- 市内北部を中心にまとまったみどりがあり、住宅地内には公園、緑地、生産緑地があるなど、市内には規模や特徴の様々なみどりが存在しています。
- 4つの大規模な公園（薬師池公園、野津田公園、芹ヶ谷公園、鶴間公園）では、観光や都市の魅力向上を目的にした先導的な取り組みを実施しています。

●市内には多くの生産緑地があるため、今後の土地利用の動向を注視することが必要です。

【今後予想される課題】

●市街化区域内の生産緑地を、公園・緑地を補完する資源にしていくことが必要です。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 みどりを活用した心地よい環境づくり

市内にあるみどりの役割や活用方法を明確にし、人それぞれの過ごし方に応じた空間を選択できる環境を整えます。

2 みどりとの関わりによる健康的な暮らしの支援

みどりの中で行われるアクティビティの育成を進め、市民の健康的な暮らしを支援します。

関係する町田市の計画

●町田市都市づくりのマスタープラン

みんなの想い

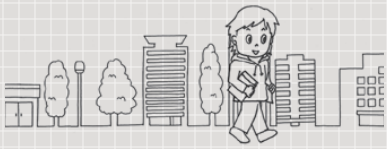
みどりの中で音楽を楽しむイベントを企画したい。

＼政策／

9

みんなが安心できる
強いまちになる

市民の命や健康を守ることは、市の最も重要な責務の一つです。安心できる暮らしがあってこそ、そのまちの未来に思いをはせることができます。どんな災害や疫病にも負けない、とにかく強いまち、そんなまちになれるよう、ひと・まちを災害に強くするとともに、地域の安全を守る、そして市民の健康を守るための取り組みなどを行っていきます。



POLICY

政策実現によってなりたい姿

大規模災害などがあっても、みんなが協力し合い、
乗り越えようとする連帯感が生まれています。

政策実現にあたって意識する指標

日常生活に対して
安心感をもつ市民の割合

現状値
67.3%
(2021年度)

目標値

現状と課題

新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、密閉・密集・密接を避けるなどの新しい生活様式が定着したことから、災害時の避難のあり方などにも変革が求められています。

政策に紐づく施策

施策９-１
ひと・まちを
災害に強くする

施策９-２
地域の安全を
守る

施策９-３
市民の健康を
守る

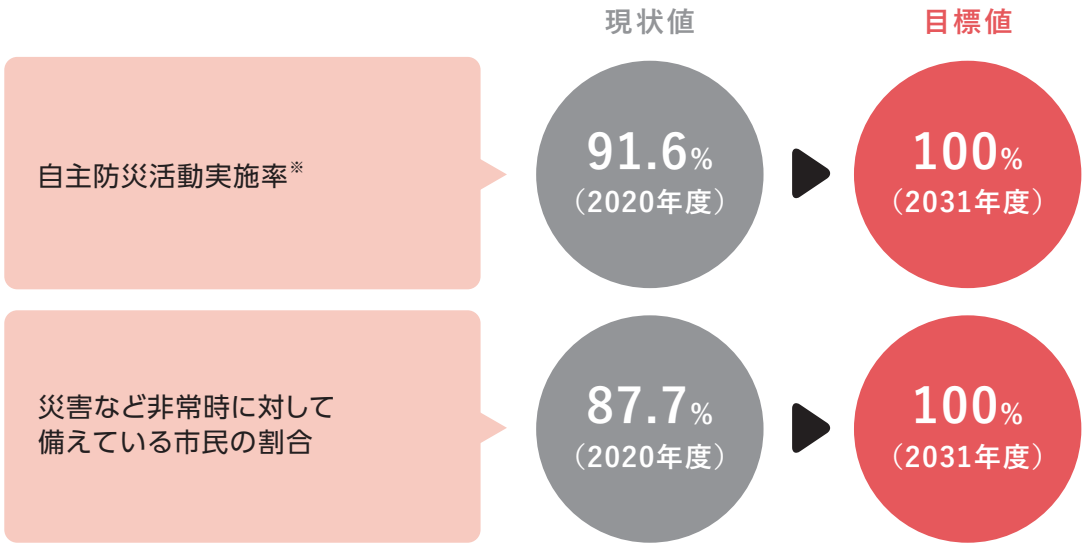
施策 9-1

ひと・まちを災害に強くする

施策実現によってなりたい姿

- 市民一人ひとりが、災害に対して備えるとともに、地域における防災活動に積極的に参加することで、地域一丸となって災害に対応する体制が整っています。また、道路などの各種インフラが整備され、災害復旧時に有効活用されています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国の「地域防災力の充実強化に関する法律」では、消防団※や自主防災組織の活動の充実や強化を支援することとしています。
- 国の「建築物の耐震改修の促進に関する法律」と東京都の「東京都耐震改修促進計画」では、建築物や組積造の塀の耐震化を進めることとしています。

【町田市の現状・課題】

- 避難施設ごとに開催している避難施設関係者連絡会の開催率は100%（2019年度）です。
- 市内の狭あい道路では、緊急車両の通行に支障を来す可能性があります。災害復旧を迅速に行うため、道路や水路の図面整備が必要です。
- 道路などのインフラは老朽化が進んでいるため対策が必要です。

【今後予想される課題】

- 消防団員や自主防災組織の若い担い手の不足が見込まれます。
- 1981年以前の旧耐震基準で建てられた建築物は、経年劣化により今後震災時の倒壊の危険性が増していきます。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 防災を担う人づくり

若い力を掘り起こし、地域防災を担うリーダーを育成することで、地域の自主的な防災活動の充実を図ります。

2 自助・共助の推進

災害時に自助・共助が最大限発揮されるよう、市民をはじめ、町内会・自治会や自主防災組織などにおける日頃の備えを働きかけます。

3 インフラの耐災害性向上

災害対応時にも有効活用できるよう、道路などの各種インフラの整備や維持管理を行い、耐災害性を向上させます。さらに、災害復興が迅速かつ円滑に進むよう、道路や水路の図面整備の実施に加え、流域治水※上重要なグリーンインフラ※である里山環境の保全に努めます。

4 耐震性が低い建築物の耐震化

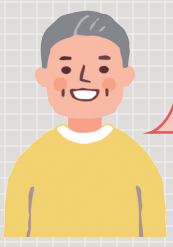
旧耐震基準で建てられた建築物の耐震化を支援します。

また、旧耐震建築物の耐震化の状況を見て、旧耐震建築物ではないものの耐震補強が必要と思われる建築物に対しても支援の拡大に努めます。

関係する町田市の計画

- 町田市地域防災計画
- 町田市事業継続計画
- 町田市国民保護計画
- 町田市危機管理指針
- 町田市耐震改修促進計画

みんなの想い



防災グッズを常備し、
早めの避難を心掛けたい。

防災情報のメルマガ登録をして、
常にチェックしていきたい。

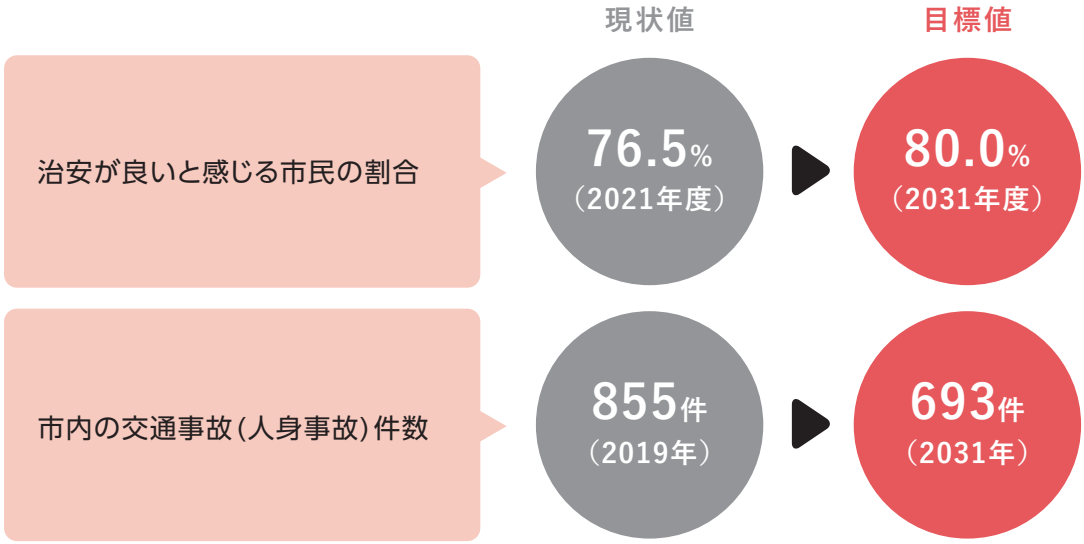
施策 9-2

地域の安全を守る

施策実現によってなりたい姿

- 町田市で暮らす人が安全に生活でき、町田市を訪れる人が安心して訪れることができています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 社会情勢の変化に乗じた新たな犯罪の手口が発生しています。
- 道路交通法改正に伴う運転中のながらスマホ※やあおり運転※に関する罰則の強化、東京都条例改正に伴う自転車保険加入の義務化など、社会情勢に対応した法令の改正が行われています。

【町田市の現状・課題】

- 市内における特殊詐欺被害の件数は減少している一方で、被害金額は増加しています。
- 交通事故(人身事故)発生件数は、この10年間で半減しています。

【今後予想される課題】

- 特殊詐欺の手口が巧妙化していることから、地域の防犯意識を高めるための周知を工夫していくことが必要です。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 防犯対策の推進

「安心して暮らせる地域社会の形成」を実現するため、ボランティアや警察などとの協働による防犯パトロールや、特殊詐欺被害防止のためのキャンペーンなどを実施し、防犯意識の向上を図ります。

2 交通安全対策の推進

「交通事故のない安全安心な町田市」を実現するため、対象者に応じた交通安全教室の実施や、インターネットなどを活用した情報発信などを通じて、交通ルールやマナーを周知するとともに、道路の交通安全施設の整備や危険箇所の改良を実施します。

関係する町田市の計画

●町田市安全安心まちづくり推進計画
●第3次町田市交通安全行動計画

みんなの想い

防犯パトロールに参加して、
地域安全に貢献できたらいいなぁ。

施策 9-3

市民の健康を守る

施策実現によってなりたい姿

- 心や体の健康が脅かされる危機が発生したときに、市、市民、関係機関などが相互に理解、協力をして健康を守れるようになっています。

なりたい姿の実現度を測る指標

	現状値	目標値
自殺死亡率（人口10万人あたり）	15.3（2018～2020年平均）	12.2以下（2029～2031年平均）
健康診断を受診している市民の割合	78.6%（2021年度）	80.0%以上（2031年度）

現状と課題

【国や東京都に関する現状・課題】

- 国の「健康日本21（第2次）」と東京都の「東京都健康推進プラン21（第2次）」では、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目標に掲げています。
- 国の「自殺対策基本法」では、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現を目指すこととしています。

【町田市の現状・課題】

- 災害時における迅速な情報共有が課題です。
- 町田市総合防災訓練において、市民、町田市医師会、町田市薬剤師会などとの連携の下、医療救護活動訓練を実施しています。また、「新型インフルエンザ等対策行動計画」「町田市保健所健康危機ガイドライン」を策定し、これらに基づいて、研修や訓練を実施しています。
- 新型コロナウイルス感染症対策は、市民への情報提供、相談窓口の開設・運営、町田市医師会や町田市歯科医師会との連携を図りながら対応しています。

受診や検査などの体制について、わかりやすい市民への情報提供が重要です。

【今後予想される課題】

●感染症対策は、随時状況が変化することから、いち早く関係機関との連携を図るとともに、市民に対し素早く情報提供を行うこと、正しく感染予防行動をとってもらうための周知を進めていくことが課題です。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 災害発生時の医療連携の推進

災害時医療救護対策準備会議の開催や、医療機関が主催する感染症防止対策会議に参加し、平時から医療機関との連携を推進します。

2 感染症対策の推進

新型コロナウイルス感染症を含め、感染症対策の取り組みを行います。

また、町田市健康危機管理委員会の開催などにより、市民に健康被害が及ぶ恐れがある様々な健康危機への対応を図ります。

3 心と体の健康の推進

健康に生活できるまちをつくるため、市民が自ら生活習慣の改善や健康づくりに取り組める環境を整備するとともに、啓発活動を行います。

関係する町田市の計画

●まちだ健康づくり推進プラン
●町田市新型インフルエンザ等対策行動計画

みんなの想い

定期健診をしっかり受けて、
自己健康管理を徹底したい。